

# 稲沢市コミュニティバス運行に関する市民アンケート調査集計結果

## 1 アンケート調査の概要

この調査は、平成20年7月1日から試行運行を開始したコミュニティバスの利便性向上に向けた調査研究に資することを目的として実施しました。

### (1) 調査期間

平成21年6月10日(水)から6月23日(火)までの14日間

### (2) 調査対象

平成21年6月1日現在、住民基本台帳に登録されている満18歳以上から無作為抽出した市民2,500人。

### (3) 調査項目

コミュニティバスの利用形態について  
コミュニティバスの停留所について  
コミュニティバスの時刻表について  
コミュニティバスの運行経費について  
コミュニティタクシーの利用形態について

### (4) 調査方法

無作為抽出した2,500人へアンケート調査用紙を郵送し、同封した返却封筒により調査用紙を回収

### (5) 回答率

66.8% 回答者数 1,669人

### (6) 調査結果の見方

割合(比率)の合計については、端数処理(小数点以下第2位を四捨五入)の関係により100%にならない場合があります。

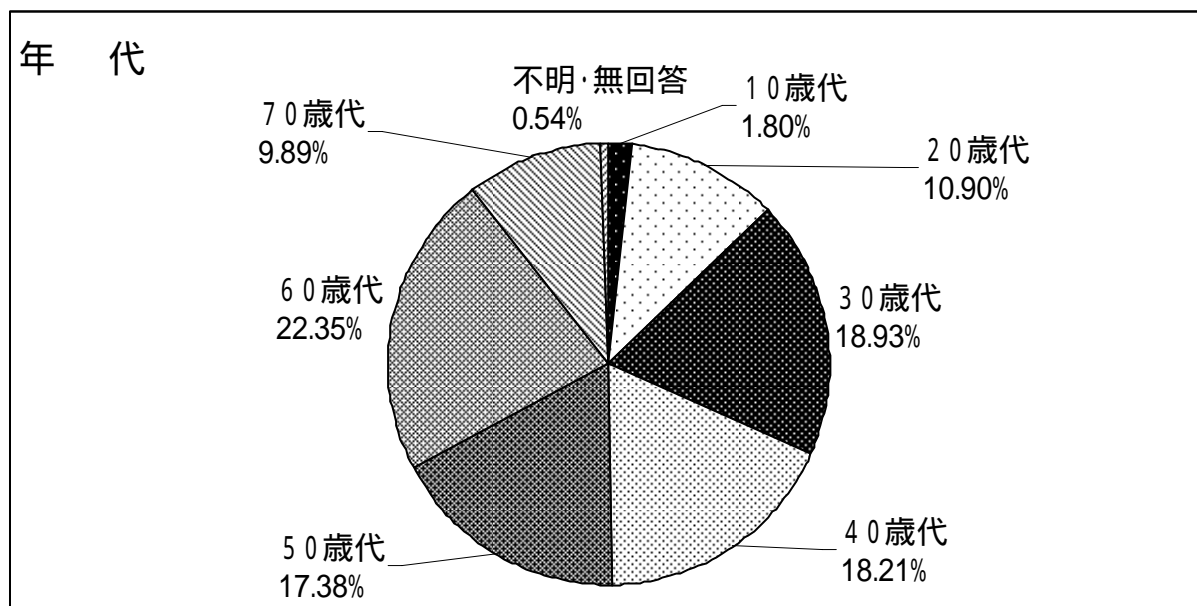
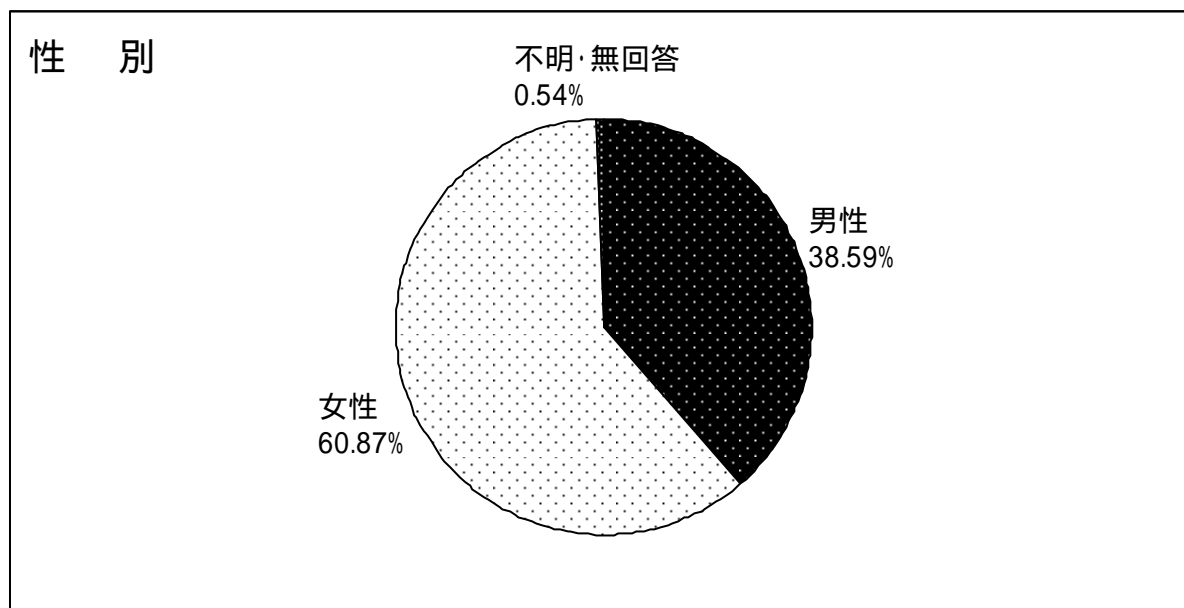
複数回答の質問の場合は、その選択肢の回答が、回答者全数の何%かを示しています。

## 2 回答者の属性

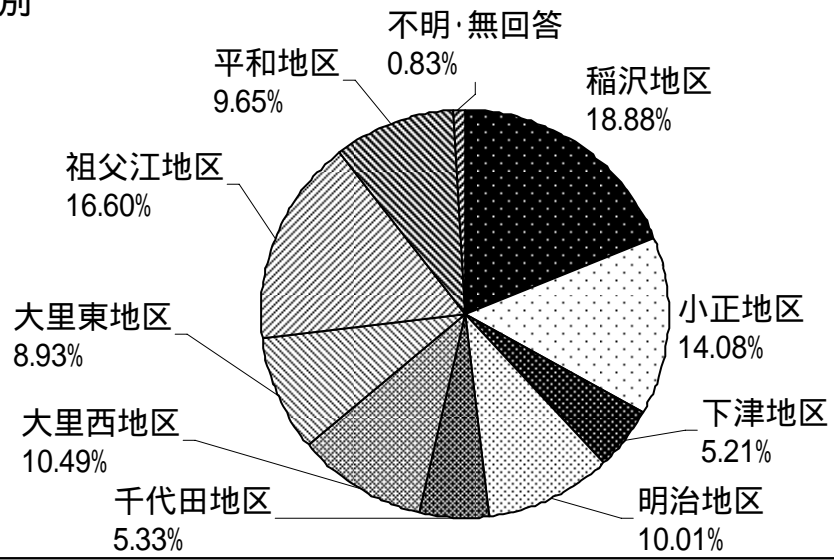
アンケート調査に回答いただいたかたは、男性 38.59%、女性 60.87%と、女性が多くなっています。

回答いただいたかたの年代別では、60歳代 22.35%、30歳代 18.93%、40歳代 18.21%、50歳代 17.38%、20歳代 10.90%、70歳代 9.89%、10歳代 1.80%の順で多くなっています。

回答いただいたかたの地区別では、稲沢地区 18.88%、祖父江地区 16.60%、小正地区 14.08%、大里西地区 10.49%、明治地区 10.01%、平和地区 9.65%、大里東地区 8.93%、千代田地区 5.33%、下津地区 5.21%の順で多くなっています。



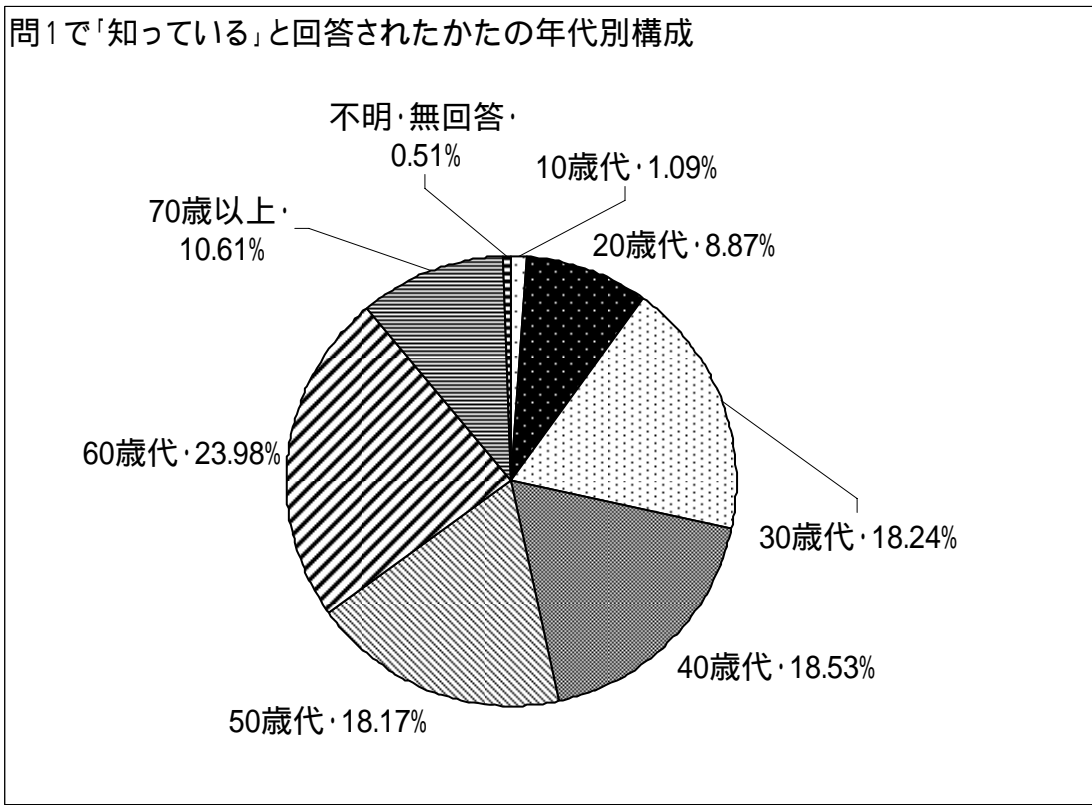
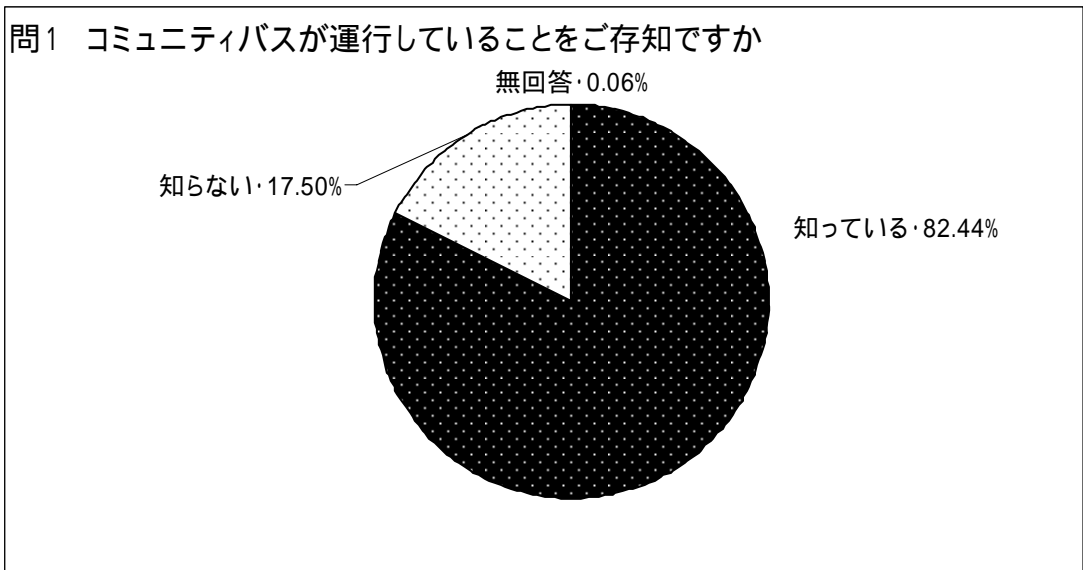
地区別



### 3 アンケート調査の結果

問1 コミュニティバスが運行していることをご存知ですか。

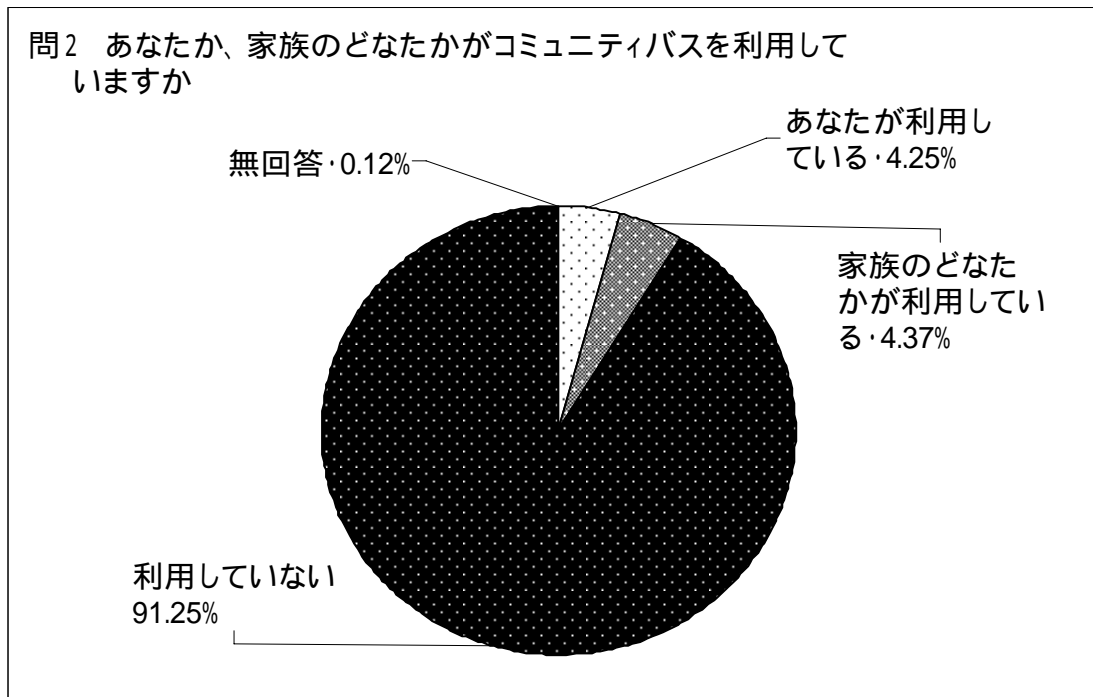
コミュニティバスの運行を「知っている」と回答されたかたは、82.44%です。  
運行開始して11ヶ月が経過しており、コミュニティバスの運行が広く認知されてきたものと考えます。  
「知っている」と回答されたかたの年代別は、60歳代 23.98%、40歳代 18.53%、30歳代 18.24%、50歳代 18.17%の順で多くなっています。



問2 あなたか、家族のどなたかがコミュニティバスを利用していますか。

コミュニティバスを利用されているかたは、アンケートの回答者本人 4.25%とご家族 4.37%を合わせても8.62%です。

「利用していない」と回答されたかたは91.25%と回答者の9割を超えており、コミュニティバスの運行は広く認知されてきましたが、利用促進に向けた『コミュニティバス運行事業計画』見直しの検討が必要であると考えています。



問3 どの程度コミュニティバスを利用していますか。

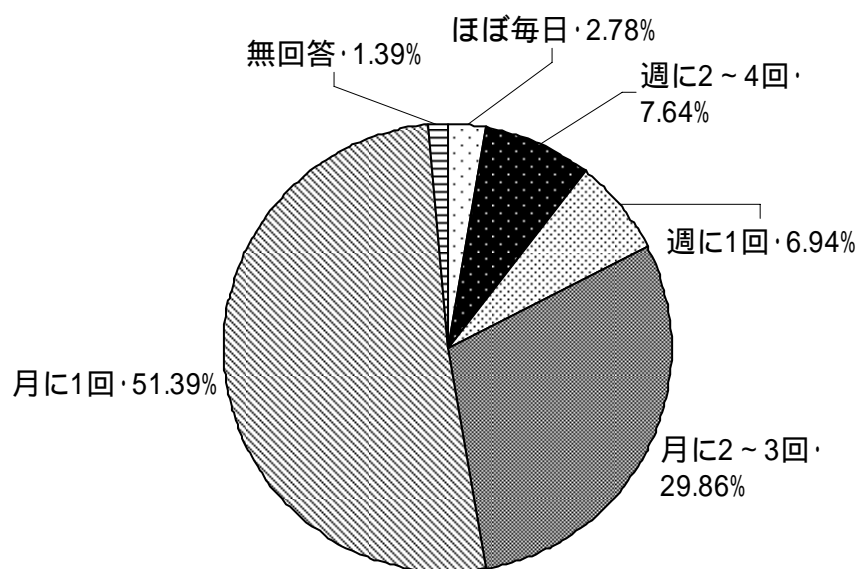
( 問2で「利用している」と回答されたかたへの設問 )

コミュニティバスの利用回数は、「月に1回」が51.39%と半数を占め、次に「月に2～3回」が29.86%となっており、月に1～3回利用されているかたで約80%を占めています。

また、毎週利用されているかたは、「週に2～4回」が7.64%、「週に1回」が6.94%と、約15%になっています。

このことから、コミュニティバス運行目的の一つである生活支援が達成されているものと考えています。

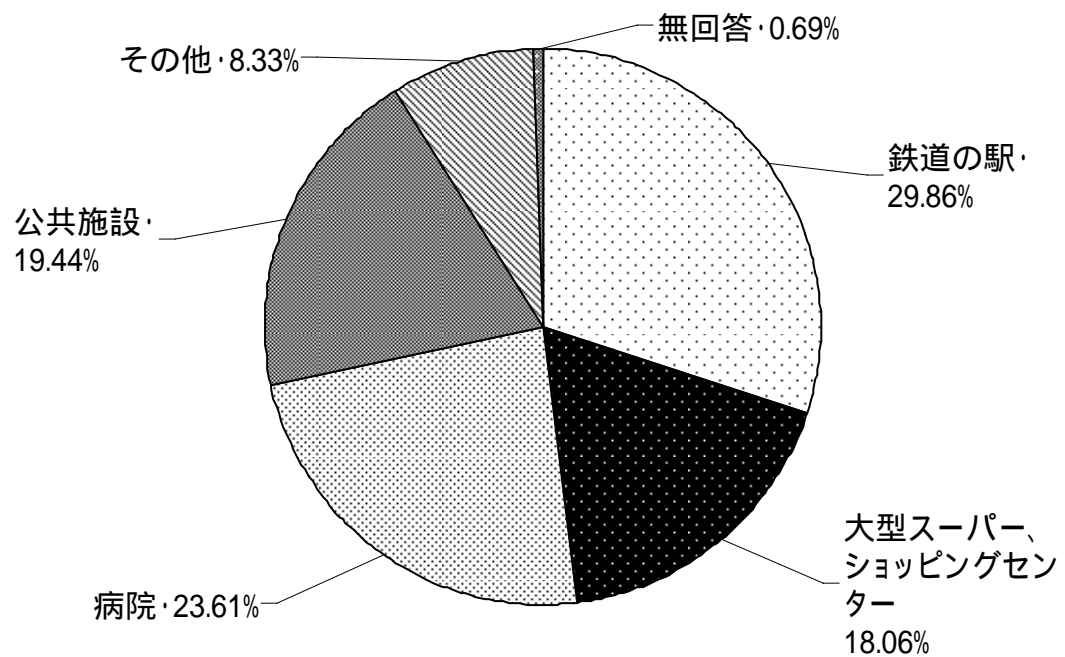
問3 どの程度コミュニティバスを利用していますか



問4 コミュニティバスを利用して主にどちらへ行かれますか。  
( 問2で「利用している」と回答されたかたへの設問 )

コミュニティバスを利用して主に行かれるのは、鉄道の駅 29.86%、病院 23.61%、公共施設 19.44%、大型スーパー、ショッピングセンター 18.06%の順に多くなっています。

問4 コミュニティバスを利用して主にどちらへ行かれますか



問5 コミュニティバスを利用していない理由は何ですか。

( 問2で「利用していない」と回答されたかたへの設問。複数回答可 )

コミュニティバスを利用していない理由としては、「自家用車、自転車など他の交通手段を利用している」が84.77%と8割以上のかたが回答されており、次に「近くにバス停がない」が27.91%、「コミュニティバスの運行を知らなかった」が13.99%、「利用したい時間帯と合わない」が11.29%、「運行本数が少ない」が10.83%、「行きたい場所へ運行していない」が9.59%の順に多くなっています。

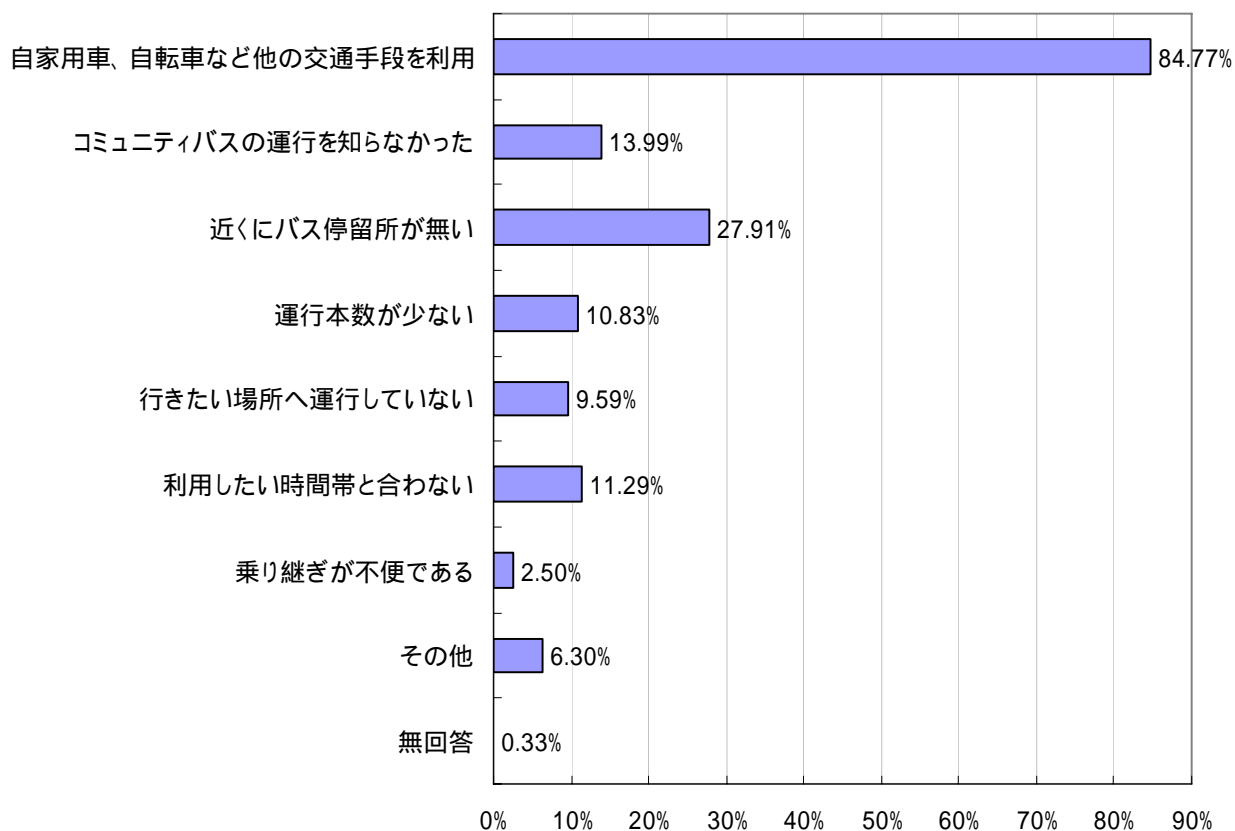
利用状況を調査分析し、運行路線、運行時間、停留所の位置等を検討する必要があると考えています。

回答いただいた理由を地区別に分析しますと、「自家用車、自転車など他の交通手段を利用している」は、すべての地区において最も多くなっています。

「近くにバス停がない」は、稲沢地区、小正地区、千代田地区、祖父江地区で、それぞれの地区における回答率の20%を超えており、運行路線の変更や停留所の新設または移設が望まれていると考えます。

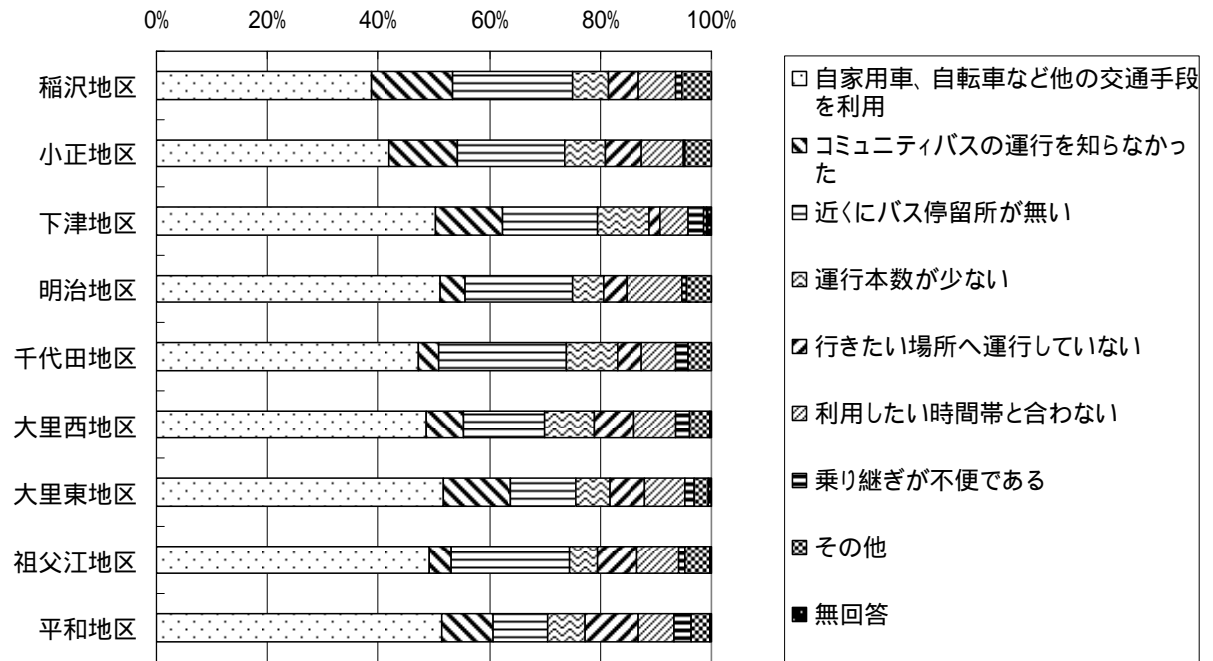
なお、「コミュニティバスの運行を知らなかった」は、稲沢地区、小正地区、下津地区、大里東地区で、それぞれの地区における回答率の10%を超えており、利用促進に向けた広報活動が必要であると考えます。

問5 コミュニティバスを利用していない理由は何ですか





問5の回答における地区別状況



問6 東西幹線（運行距離：24.2km 運行時間：約1時間20分）南北幹線（運行距離：上り32.9km 下り32.8km 運行時間：約1時間30分）の路線を一部変更する場合、どのような点を考慮すればよいと思いますか。

問6から問8までは、コミュニティバスをより利用しやすくするために、どのようにするとよいかを伺ったものです。

運行路線を一部変更する場合に考慮する点は、「東西幹線と南北幹線の乗り継ぎをやすくする」が32.29%、「運行距離や運行時間を短縮する」が23.31%、「現行のままでよい」が19.77%の順に多くなっています。

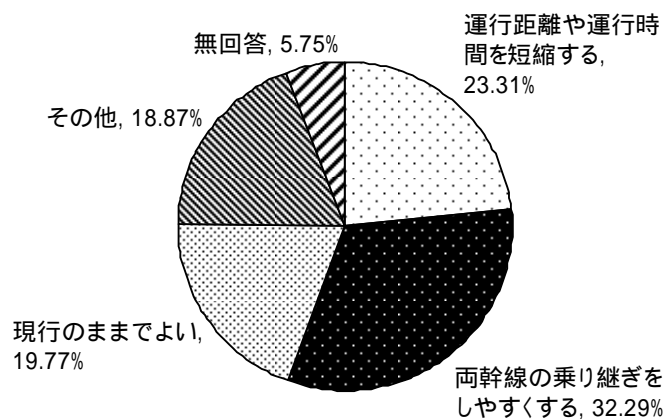
この結果から、運行路線、運行時間及び乗り継ぎができる停留所の変更等を検討する必要があると考えています。

回答を地区別に分析しますと、「東西幹線と南北幹線の乗り継ぎをやすくする」は、すべての地区において最も多くなっており、稲沢地区、小正地区、下津地区、大里西地区、大里東地区、平和地区で、それぞれの地区における回答率の30%を超えています。

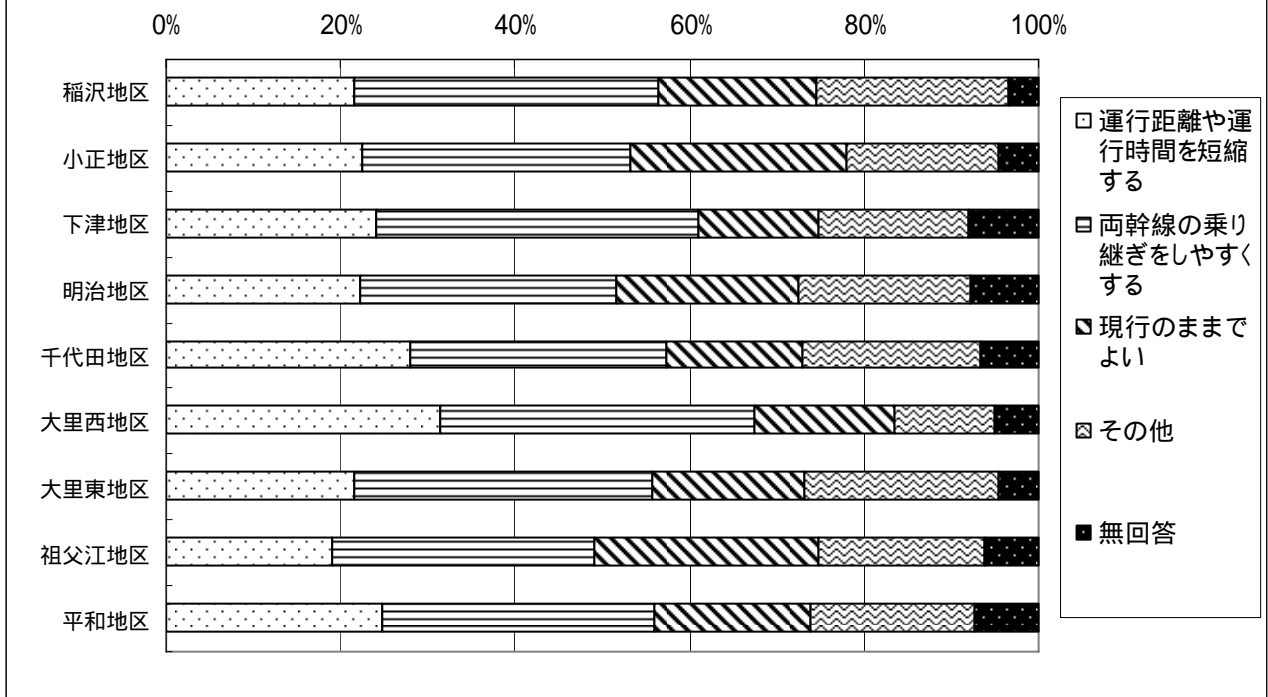
「運行距離や運行時間を短縮する」は、大里西地区 31.43%、千代田地区 28.09%、平和地区 24.84%と、南北幹線が運行している地区で多くなっています。

一方、「現行のままでよい」は、祖父江地区 25.63%、小正地区 24.68%、明治地区 20.96%と、東西幹線が運行している地区で多くなっています。

問6 両幹線の路線を一部変更する場合、どのような点を考慮すればよいと思いますか



### 問6の回答における地区別状況



問7 東西幹線（停留所：27か所）、南北幹線（停留所：31か所）の停留所数または設置場所を一部変更する場合、どのような点を考慮すればよいと思いますか。

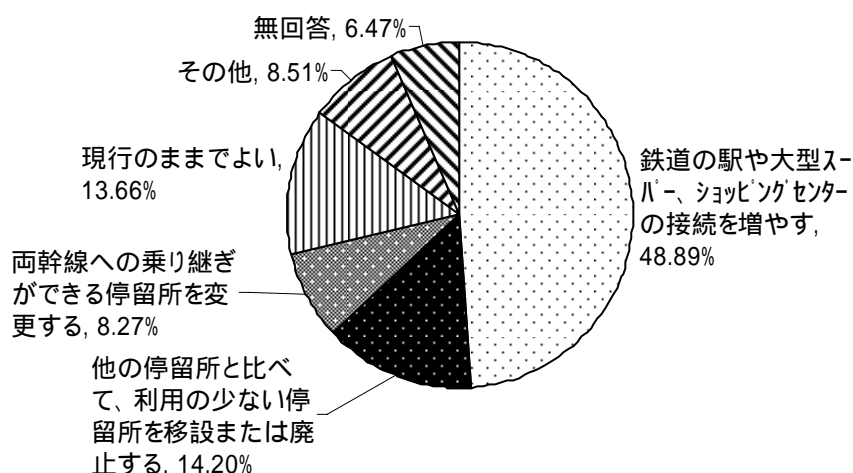
バス停留所数または設置場所を一部変更する場合に考慮する点は、「鉄道の駅や大型スーパー、ショッピングセンターの接続を増やす」が48.89%、「他の停留所と比べて、利用の少ない停留所を移設または廃止する」が14.20%、「現行のままでよい」が13.66%、「東西幹線と南北幹線の乗り継ぎができる停留所（現在3か所：市民会館・中央図書館、市民病院、国府宮駅）を変更する」が8.27%の順に多くなっています。

回答を地区別に分析しますと、「鉄道の駅や大型スーパー、ショッピングセンターの接続を増やす」は、すべての地区において最も多くなっており、下津地区 66.67%、大里西地区 53.14%、小正地区 51.91%で、それぞれの地区における回答率の50%を超えています。

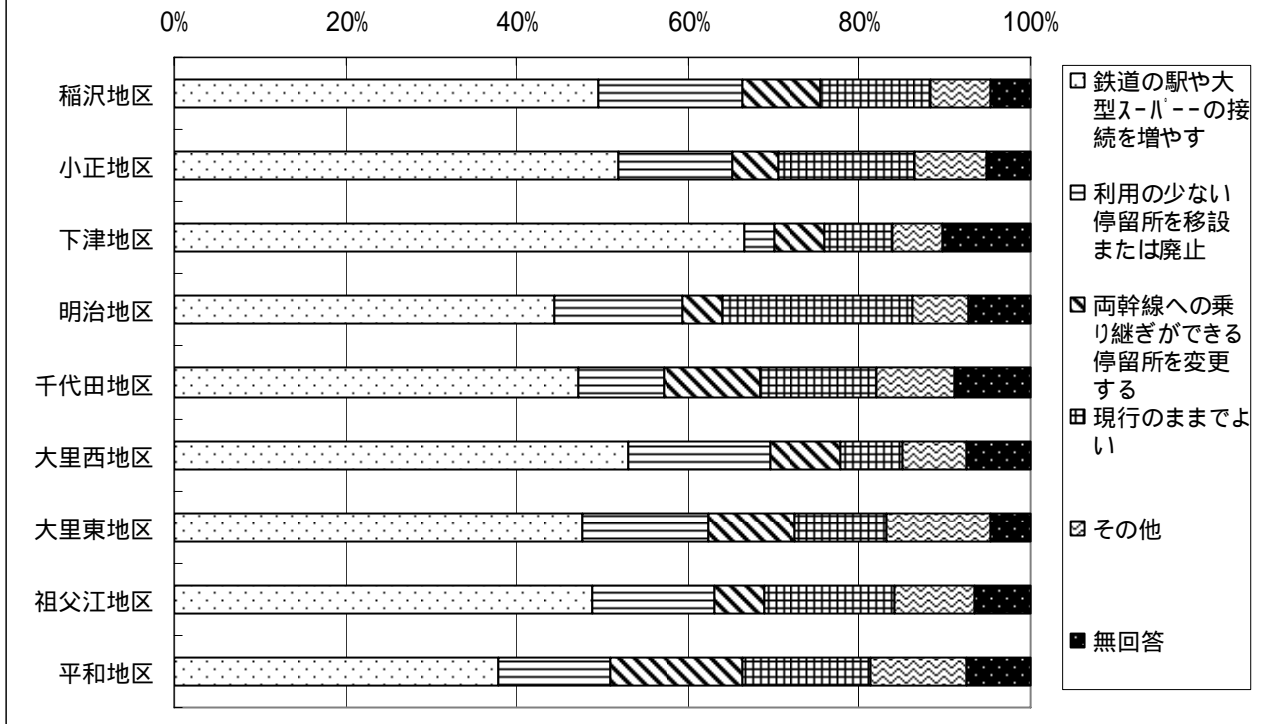
「他の停留所と比べて、利用の少ない停留所を移設または廃止する」は、稲沢地区 16.83%、大里西地区 16.57%で多く、「東西幹線と南北幹線の乗り継ぎができる停留所を変更する」は平和地区 15.53%で多くなっています。

一方、「現行のままでよい」は、明治地区 22.16%、小正地区 15.74%、祖父江地区 15.16%と、東西幹線が運行している地区で多くなっています。

問7 バス停留所数または設置場所を一部変更する場合、どのような点を考慮すればよいと思いますか



### 問7の回答における地区別状況



問8 東西幹線上り（運行便数：8便 運行時間帯：午前7時45分から午後7時）  
 東西幹線下り（運行便数：8便 運行時間帯：午前8時から午後6時30分）  
 南北幹線上り（運行便数：4便 運行時間帯：午前7時30分から午後7時15分）  
 南北幹線下り（運行便数：3便 運行時間帯：午前9時02分から午後5時32分）  
 これらの時刻表を変更する場合、どのような点を考慮すればよいと思いますか。

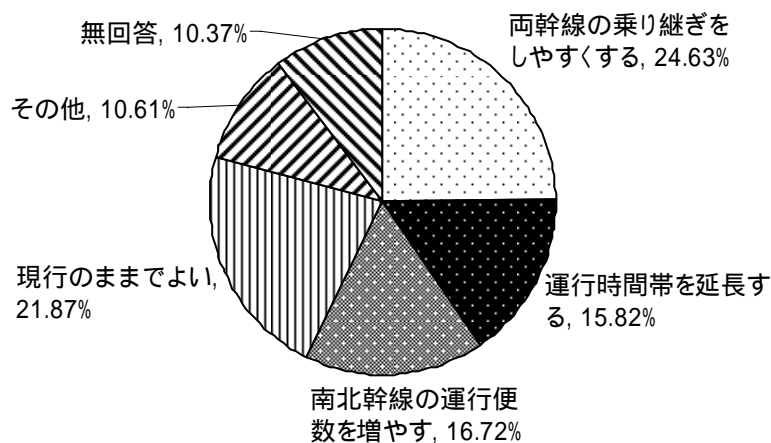
東西幹線上り・下り及び南北幹線上り・下りの時刻表を変更する場合に考慮する点は、「東西幹線と南北幹線の乗り継ぎをしやすいにする」が24.63%、「現行のままでよい」が21.87%、「南北幹線の運行便を増やす」が16.72%、「運行時間を延長する」が15.82%の順に多くなっています。

回答を地区別に分析しますと、「東西幹線と南北幹線の乗り継ぎをしやすいにする」が最も多かった地区は、大里西地区 29.71%、平和地区 27.95%、小正地区 27.23%、下津地区 26.44%、稲沢地区 24.13%の5地区であり、「南北幹線の運行便を増やす」が最も多かった地区は、大里東地区 28.19%、千代田地区 28.09%の2地区、「運行時間を延長する」が最も多かった地区は、祖父江地区 27.08%、明治地区 26.35%の2地区となっています。

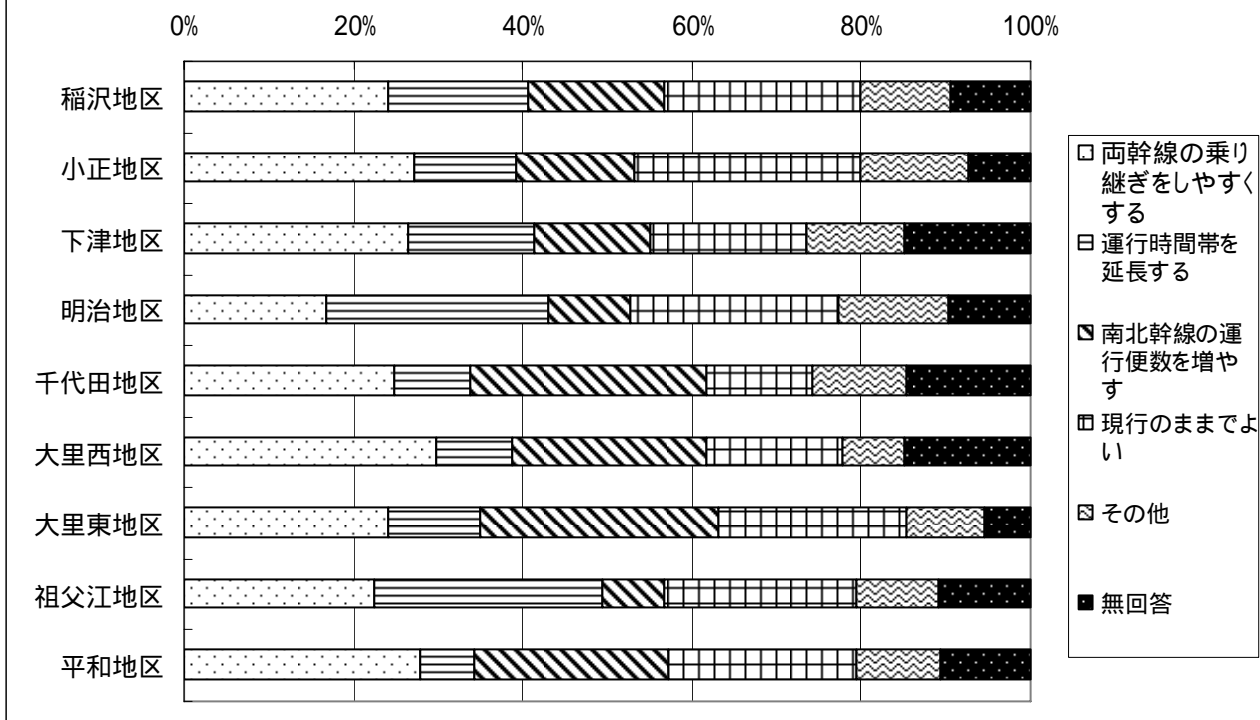
なお、南北幹線の時刻表の変更に関しては、「東西幹線と南北幹線の乗り継ぎをしやすいにする」と「南北幹線の運行便を増やす」と回答されたかたを合わせますと、明治地区と祖父江地区を除いた7地区のすべてで40%を超えています。

一方、「現行のままでよい」は、小正地区 26.81%、明治地区 24.55%、稲沢地区 23.17%と、東西幹線が運行している地区で多くなっています。

問8 東西幹線上り・下り、南北幹線上り・下りの時刻表を変更する場合、どのような点を考慮すればよいと思いますか



### 問8の回答における地区別状況



問9 平成20年8月から平成21年3月までのコミュニティバス運行経費は、利用者1人当たり約874円(1乗車1人200円、小学生100円、未就学児無料)を要しました。

今後、この経費はどのようにするべきだと思いますか。

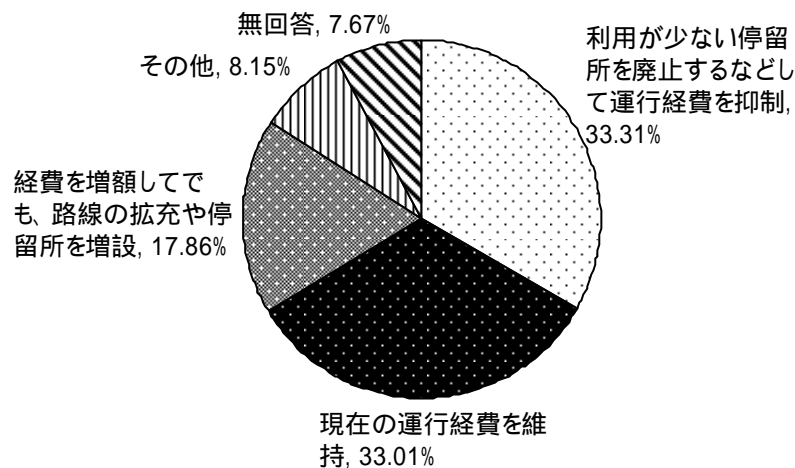
運行経費についてどのように考えるかという設問については、「利用が少ない停留所を廃止するなどして、運行経費を抑制する」が33.31%、「現在の運行経費を維持する」が33.01%、「運行経費を増額してでも、路線の拡充や停留所を増設する」が17.86%の順に多くなっています。

運行経費の抑制と維持が合わせると約66%となることから、限られた財源の中で費用効果の高い運行経費とする必要があると考えます。

回答を地区別に分析しますと、「利用が少ない停留所を廃止するなどして、運行経費を抑制する」が最も多かった地区は、大里東地区38.93%、平和地区38.51%、下津地区36.78%、小正地区34.47%(同率)、稲沢地区34.29%の5地区であり、「現在の運行経費を維持する」が最も多かった地区は、明治地区35.33%、祖父江地区35.02%、小正地区34.47%(同率)、大里西地区31.43%、千代田地区29.21%の5地区となっています。

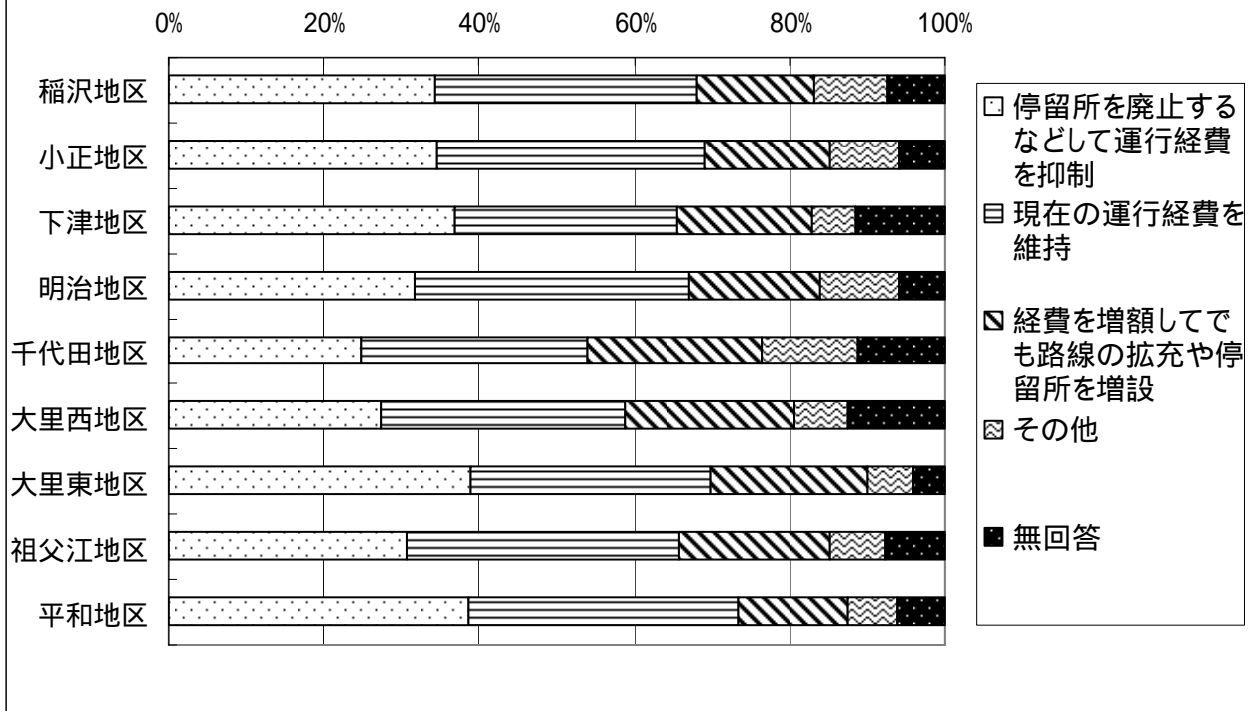
一方、「運行経費を増額してでも、路線の拡充や停留所を増設する」は、千代田地区22.47%、大里西地区21.71%、大里東地区20.13%と、南北幹線が運行している地区で多くなっています。

問9 運行経費はどのようにするべきだと思いますか





問9の回答における地区別状況



問10 コミュニティバスへの連絡手段として、祖父江町地内ではコミュニティタクシーを運行しています。コミュニティタクシーの運行についてご存知ですか。

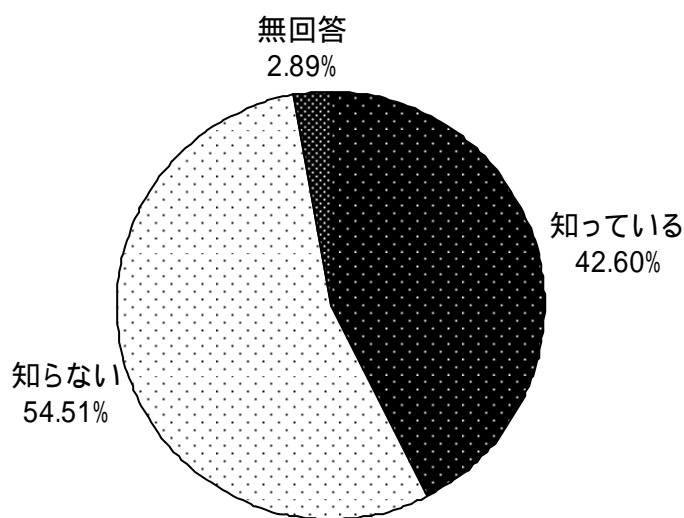
問10から問12までは祖父江町地内を運行するコミュニティタクシーに関する設問のため、回答者を同地内にお住まいの方に限定しています。

回答者277名のうちコミュニティタクシーの運行を「知っている」が42.60%、「知らない」が54.51%となっています。

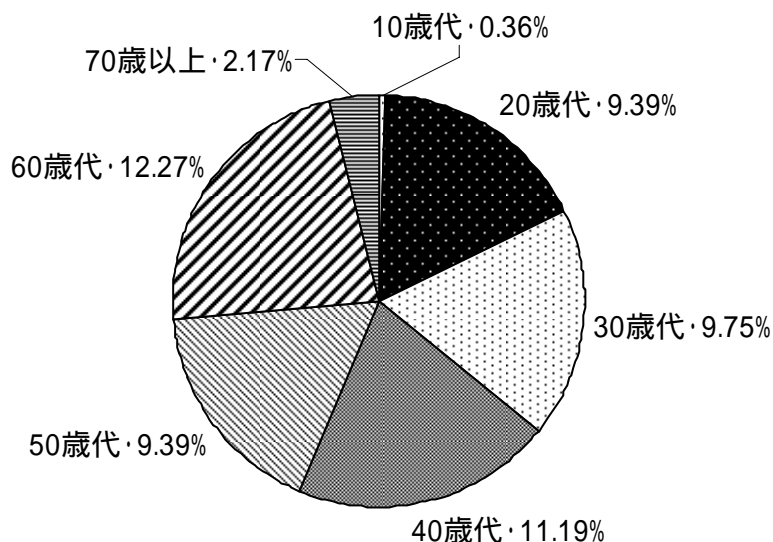
コミュニティタクシーの利用が低調な原因の一つとして、認知度の低さが考えられます。

なお、「知らない」と回答されたかたの年代を見ますと、60歳代が12.27%、40歳代が11.19%、30歳代が9.75%、20歳代と50歳代が9.39%となっています。

問10 コミュニティタクシーの運行についてご存知でしたか



問10 「知らない」と回答された方の年代別割合



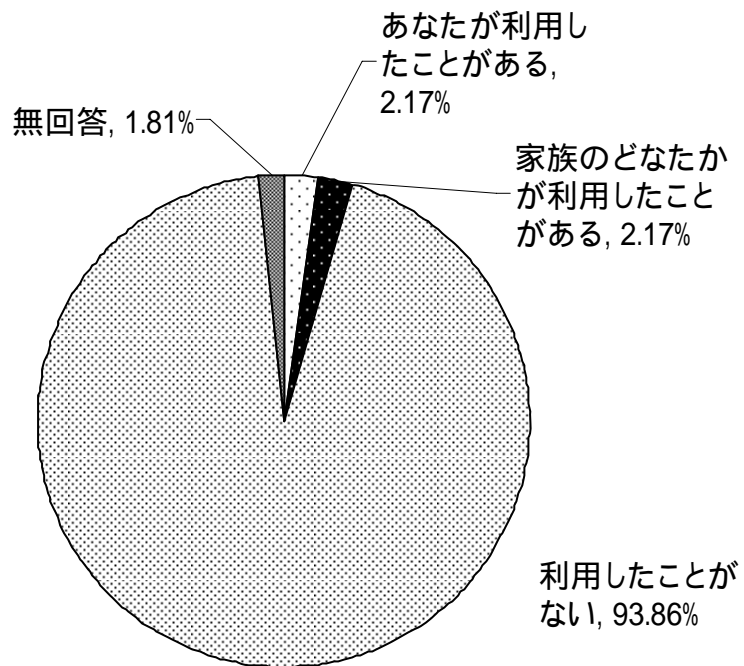
問11 あなたか、家族のどなたかがコミュニティタクシーを利用したことがありますか。

コミュニティタクシーを利用されたことがあるかたは、アンケートの回答者本人 2.17%とご家族 2.17%を合わせても4.34%しかありません。

コミュニティタクシーはコミュニティバスへの連絡手段であるため、その利用者増加はコミュニティバスの利用促進に繋がります。

そのため、コミュニティバスの運行路線やバス停留所の変更に併せ、コミュニティタクシーの運行についても、利用促進に向けた対応を検討する必要があると考えます。

問11 あなたか、家族のどなたかがコミュニティタクシーを利用したことがありますか



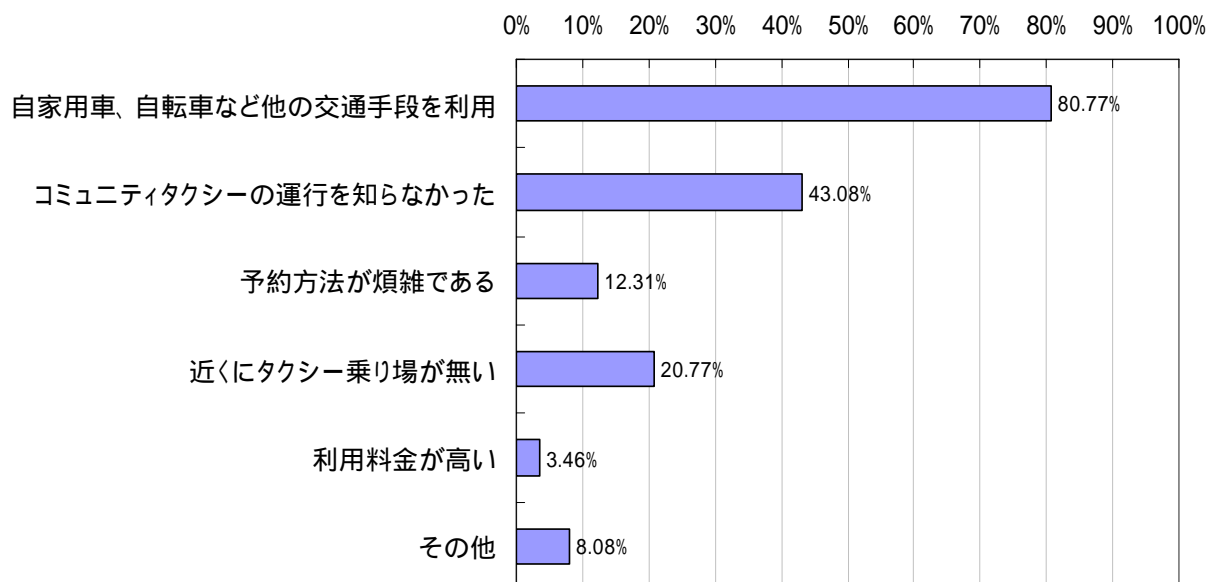
問12 コミュニティタクシーを利用していない理由は何ですか。

( 問11で「利用したことがない」と回答されたかたへの設問。複数回答可 )

コミュニティタクシーを利用していない理由としては、「自家用車、自転車など他の交通手段を利用している」が80.77%と8割以上のかたが回答されており、次に「コミュニティタクシーの運行を知らなかった」が43.08%、「近くにタクシー乗り場がない」が20.77%、「予約方法が煩雑である」が12.31%、「利用料金が高い」が3.46%の順に多くなっています。

「コミュニティタクシーの運行を知らなかった」に対しては、パンフレットの配布、市広報及び市ホームページの掲載等によるPRの実施に努め、また、「予約方法が煩雑である」に対しては、予約できる時間帯の改正を実施するなど、コミュニティタクシー利用促進を図ってまいります。

問12 コミュニティタクシーを利用していない理由は  
何ですか



コミュニティバス及びコミュニティタクシーに関する意見・要望(アンケート調査「自由記入」欄より集約)

種 別	意 見 ・ 要 望 等
コミュニティバスの運行路線、時刻表等の見直しに関すること	運行路線、運行便数の増設
	南北幹線の増便
	運行区域の拡大
	運行距離、運行時間の短縮
	運行時間帯の延長
	バス停留所の増設または移設
	利用者の少ない停留所の廃止
	鉄道の駅、ショッピングセンターへの停留所設置
	曜日による運行路線の変更
	乗り継ぎの改善
	利用者の多い時間帯への増便及び少ない時間帯の廃止
	日曜日、祝日の運行
	運行車両の大型化
	高齢者の利用しやすい運行
循環型の運行	
運行の廃止	
コミュニティバスの利用料金に関すること	利用料金の見直し(増減)
	定期券、割引制度の導入
	利用者年会費制度の導入
	利用料金の撤廃、無料化
コミュニティタクシーに関すること	運行区域の拡大
	コミュニティタクシー予約方法の改善
運行経費等に関すること	企業からの協賛金募集
	運行経費の削減
その他	広報・啓発活動の充実
	高齢化社会に向けて事業の継続を要望したい。
	適正な料金で事業の継続を要望したい。
	利用者のニーズ調査の充実
	一度利用してみたい。
コミュニティバスに関心を持った。	